

みやぎの 林業だより



みやぎの木づかい運動



表紙写真

みやぎの木づかい運動の取組の1つである第4回みやぎ児童・生徒「木工工作」コンクールの受賞作品。

右上は小学校低学年、右下は小学校中学年、左上は小学校高学年の各最優秀作品、左下はシンボルマークです。

関連記事：P. 2

平成23年2月25日
発行

193号

目次	【話 題】	◎「みやぎの木づかい運動」2010年の取組 2
		◎平成22年度宮城県緑化功労者が表彰されました 2
		◎これぞ匠の技なり！～鬼首のワサビ栽培名人～ 3
		◎2011年は「森林」を考える年です。～国際森林年～ 3
		◎「トータル・コーディネーター」始動準備完了！ 4
		◎本県林業の中核を担う林業技能者が認定されました！ 4
		◎栗原市花山で「森林づくり体験会」を開催 5
		◎「みやぎ里山 commons・パートナーシップの森づくり」の協定締結 5
		◎山高きが故に貴からず「造林補助制度の説明会」を開催 5
		◎平成20年岩手・宮城内陸地震の復旧状況 6
		◎森林土木技術職員研修の実施 7
		◎牡鹿半島におけるニホンジカ被害の状況と対応について 7
		◎原木しいたけ起業への道 8
	◎『きのこ料理の商品化へ!! 調理講習会と試食会を開催』 8	
	◎山の幸が直売所を盛り上げる！ 9	
	◎宮城県産きのこを堪能「みやぎのキノコ試食会」を開催 9	
	◎木造施設が次々お目見え！ 10	
	◎「たたみぜ」という提案 10	
	◎地域材利用の取組について 11	
	◎有用広葉樹の安定した種苗確保のための優良母樹林の発掘 11	
	【シリーズ】	◎研究情報コーナー
		・マツノザイセンチュウ抵抗性クロマツ品種の実生苗の評価 12
		・UV(紫外線硬化)塗装の外壁材への利用可能性について 12
	【市 況】	◎木材市況の動向・特産市況の動向 13

「みやぎの木づかい運動」 二〇二〇年の取組

身近なところから県産材を使いましょう

社会全体で県産材の利用促進を図る「みやぎの木づかい運動」を県民運動として展開しており、平成二十二年度は関係機関の協力の下、森林・林業に関連した各種コンクールや作品展などを開催したところ、コンクールには多数の応募があり、作品展にも大勢の皆様が御来場いただくことができました。

◆第四回みやぎの森林・林業「写真」コンクール

(主催・社団法人みやぎ林業活性化基金・共催宮城県県内から森林や林業に関する写真七十点の応募があり最優秀賞一点・優秀賞二点・入賞五点・特別賞一点が表彰されました。



最優秀賞 作品名「コンビネーション」

◆みやぎ木づかい顕彰(主催・県産材の利用拡大に顕著な功績があった次の団体が県産材利用促進功労者として表彰されました。

- (株)サカモト殿(柴田町)
- 仙台市長殿(仙台市)



受賞式：受賞者「(株)サカモト・仙台市」

◆みやぎの森林・林業「絵手紙」募集

(主催・県みやぎの森林や林業に関する「生きる・めぐみ・ぬくもり」がテーマであり、自然物に着目した心あたたまる作品の応募がありました。

◆第四回みやぎ児童・生徒「木工工作」コンクールと作品展

(主催・宮城木材文化ホール) 県内の児童・生徒から、県産材や林産物を利用した三百九十一点の作品応募があり各部門毎に最優秀賞・優秀賞・佳作が選ばれ表彰されました。併せて「東北電力グリーンプラ

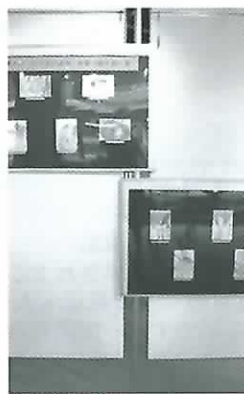
ザ」(仙台市青葉区)で作品展を開催し、各地で選出され本審査に出品された五十七点の木工作品を展示するとともに、みやぎの森林・林業「絵手紙」・「写真コンクール」応募作品を展示しました。

期間 平成二十二年十一月十六日から十一月二十一日

六日間の来場者 二千八百三十四人

◆みやぎの森林・林業「絵手紙」・写真展(主催・県の優秀な作品を県庁一・二階ロビーにて展示しました。

期間 平成二十二年十月四日から十月十五日及び十一月二十二日から十二月二日



絵手紙応募作品

(林業振興課)

平成二十二年度宮城県緑化功労者が表彰されました

県では、県土緑化運動に永年 にわたって貢献し、その功績が

特に顕著で他の模範となる方を表彰しています。

これまで四百五十二名の方が表彰され、今年度は次の方々へ知事より感謝状が贈呈されました。

◆雄勝共有会(石巻市)

会員自ら積極的に森林整備作業や巡視活動を実践され、平成十八年に発生した大規模な風倒被害の際にはその復旧に努めるなど、森林の維持保全に御尽力されました。

◆大塩コミュニティ協議会(東松島市)

「花いっぱい運動」として花壇の整備や花苗を配布されているほか、地元小学校の樹齢九十年の桜の保全活動に取り組まれるなど、環境緑化や環境整備に御尽力されました。

◆庄司 浩さん(利府町)

少年期における自然環境教育の重要性を深く理解され、利府町みどりの少年団の育成に熱心に取り組まれており、平成十九年には同少年団が(社)国土緑化推進機構の「みどり奨励賞」を受賞されるなど、庄司さんの功績は各所で高く評価されています。皆様の御功績に対し、心より感謝申し上げます。

(自然保護課)

これぞ匠の技なり! 鬼首のワサビ栽培名人

「もりのくに・にっぽん運動」のリーディングプロジェクトとして実施している平成二十二年度「森の能手・名人」に、全国で八十一名が選ばれ、そのうち唯一本県関係者として当管内から大崎市鳴子温泉鬼首でワサビ栽培を営んでいる高橋知治氏（八十歳）が選定されました。

高橋氏は、自宅裏から湧く豊富で良質な水に着目し、ワサビ栽培を思い立ち、岩手県遠野市のワサビ栽培農家へ五年間ほど通い、畳石式の栽培方法を学んだそうです。その後、試行錯誤を繰り返して独自の無農薬無肥料栽培方法を確立、最盛期にはビニールハウス六棟で栽培し、年間六百キロを超える量を東京築地市場へ出荷し、一万円／キロという高値で取引されています。周年一定の温度と水質を維持させなければならぬなど栽培が難しく非常にデリケートな作物であり、冷水で長時間にわたり根茎を洗う作業も重労働で、現在、鬼首地区では唯一の栽培者となっている氏が注いだ労力

は、並大抵ではないことが伺えます。

今回の選定を受け、当地方振興事務所にて認定証伝達式が催されましたが、当日は沢山の報道関係者が取材に訪れ、氏の卓越した栽培技術に高い関心が寄せられました。

高橋氏は、現在高齢のため作業が思うようにできなくなっていることから、地元のNPO法人鬼首山がこのメンバーが氏の側面的支援を行っているほか、事務所においてもこの「鬼首ワサビ」を地域の優れた特産物として所を上げてPRに努めています。



認定証伝達式

(北部地方振興事務所)

二〇一一年は「森林」を 考える年です☆

今年「国際森林年」です。

国際森林年とは、国連環境開発会議「地球サミット」において指摘のあった森林保全の重要性について認識を広めるため、二〇〇六年の国連総会で決議されたものです。

森林は、水源のかん養や土砂崩れの防止等のほか、酸素を供給し地球温暖化の原因である二酸化炭素を減らすなど、私たちに多くの恵みを与えています。森林の力は世界的に衰えており、森林の減少や機能低下を食い止めるためには国際社会が協力して森林を守り育て、世界全体で「持続可能な森林経営」を推進することが重要です。

このため、今年世界各地で、植樹・森林祭・スポーツ大会などのイベントを通じた森林減少・劣化防止の呼びかけや、森林再生に向けた事業が予定されています。

我が国でも、「森を歩く」をメインテーマとして掲げ、森林・林業の再生に向けた取組や、美しい森林づくり推進国民運動、

途上国の森林保全等に対する国民の理解の促進など、様々な活動を予定しています。

「森を歩き、森に親しみ、森を知る」ことは、林業の現状認識を深めることのみならず、都市に暮らす人々に気力と潤いを与え、都市と山村をつないだ森林づくりの第一歩ともいえる行動です。

県としても、各種イベントや四月から導入する「みやぎ環境税」による各種事業を活用して、国際森林年に関するPRに努めていきたいと考えております。

皆さまも、是非、この機会に森に足を運び、美味しい空気や多様な自然を堪能しながら、自分なりの森の楽しみ方や、森のためにできることを見つけてみませんか。



2011・国際森林年

国際森林年のロゴマーク

(林業振興課)

『トータル・コーディネーター』始動準備完了！
 ◆森林施業の集約化をリードする人材として活躍が期待されます◆

林業技術総合センターが実施している各種の林業技能者養成研修(平成二十二年度)が全て修了し、これまで継続的に養成を図ってきたグリーンマスターや高性能林業機械オペレーター等に加え、このたび新たに「トータル・コーディネーター(以下、TCと略記)」が誕生しました。TCは、事業地の集約化や施業の長期受託等を提案するなどして、計画的・安定的に事業量を確保したり、市場の動きを的確に把握することで有利な販売につなげるなど、優れた技術と経営感覚を備えた人材のことです。



森林資源が収穫利用の時期を迎えていることを背景に、国内林業再生のラストチャンスとして「施業の集約化による収益性の高い林業の実現」を一大プロジェクトとして進める方針で、関

係予算も来年度から重点的に措置されてくる見込です。

これを先導的に実行していくのがTCであり、県は国が別途実施している施業プランナー養成に準じ、平成二十年度から三カ年間に亘ってその養成を図ってきました。

今回、森林組合や民間事業者に所属する中堅職員を中心に二十二名の方が第一期生として認定されており、今後は森林所有者の皆様に対する価値のある山づくりのための提案や収益性の高い施業の設計・実行等に活躍が期待されます。



県は国や市町村とも連携しながら、TCの活動を支援していくこととしています。是非TCをよろしく願います。

(林業技術総合センター 普及指導チーム)

本県林業の中核を担う
 林業技能者が認定されました！

この度、本県林業の中核を担う林業技能者として次の四つの研修を修了された三十八名の方々が認定されました。

一つ目は、地域林業の中核を担うグリーンマスターです。車両系建設機械運転・不整地運搬車運転・玉掛け・はい作業等、林業に必要な専門的な技能を習得されました。初年度(昭和五十六年)からの認定者数は二百五十一人になります。

二つ目は、地域林業の効率化を担う高性能林業機械オペレーターです。プロセッサ・グラップル・フォワード等の操作・点検整備に加え、高性能林業機械を利用した適切な作業プランの立案に関する知識を習得されました。初年度(平成三年)からの認定者数は百四十六名になります。

三つ目は、林産現場でのリーダーを担うハイパー林業技能者です。耐久性の高い作業道の開設手法や作業工程管理・コスト管理技術等の習得をとおして、様々な作業現場に適した路網設計と低コスト作業システムを構

築するための高度な技術を習得されました。初年度(平成二十年度)からの認定者数は九名になります。

四つ目は、施業集約化の推進役を担うトータル・コーディネーターです。上述のとおり技能を習得され、この度、第一期生の二十二名が認定されました。

これからの林業では、持続的施業による安定した木材生産体制の整備を行うために、専門的知識と高い技術力を有する林業技能者が求められます。

県は今後も林業技能者の支援を行って参りますので、今回認定された林業技能者の皆様には、先輩の技能を受け継ぎ強化し、森林整備の推進と林業・木材産業の発展を牽引する大きな原動力となり活躍されることを期待します。



トータル・コーディネーターの皆さん



グリーンマスター、高性能林業機械オペレーター、ハイパー林業技能者の皆さん

(林業振興課)



ほくにもトントンさせて!

午後からは、林業普及指導員によるキノコの講話の後、ナメコとヒラタケ、二種類

栗原市花山で「森林づくり体験会」を開催

去る十月二十三日、栗原市花山の「こもれびの森・森林科学館」に隣接する山で、栗原市と宮城県森林インストラクター協会共催のもと「森林づくり体験会」を開催しました。

栗原市のほか、仙台市や大崎市、遠方では白石市などから一般公募で参加した四十四名が枝打や植菌作業に挑戦し、森林を育てることの大変さや森林の働きについて理解を深めました。

枝打ち安全講話の後、めいめい作業にかかりました。はじめは、山腹に登るにも不慣れでしたが、枝打ちにより明るくなった林内を見て「もっと枝打ちしたい」という声が続々とあがりました。昼食には山取キノコを用いた、森林インストラクターから美味しいキノコ汁が振るまわれました。

の植菌作業に挑戦していただきました。

皆さん熱心に原木の穴あけと種駒打込みに挑戦されていました。できたホダ木は、種類ごとに一本ずつお持ち帰りいただきました。

(北部地方振興事務所 栗原地域事務所)

「みやぎ里山コモンズパートナーシップの森づくり」の協定締結

株式会社登米村田製作所による里山林の整備

県では、環境貢献や社会貢献を目的としたCSR活動として、森づくりを希望している企業等と、活動の場としての里山林を提供する森林所有者との橋渡し役となり、里山環境の整備活動を支援しています。

登米管内で企業等の森づくりの活動の場として貸与できる森林として「みやぎの里山林協働再生支援事業」の候補林に登録していた登米市東和町米川字西綱木地内の森林について、株式会社登米村田製作所と米川生産森林組合が県内最大の活動の場となる三十五・六五畝の協定を締結しました。

当企業では、この里山林内において、今年の春から社員や家族に



協定者二人でガッチリ握手

よる植栽などの森林整備を実施することになりました。

米川生産森林組合 (株)登米村田製作所 里山コモンズ・パートナーシップの森づくり 協定締結

(東部地方振興事務所 登米地域事務所)

山高きが故に貴からず 「造林補助制度の説明会」を開催

一月十三日、当事務所と宮城北部流域森林・林業活性化センター・気仙沼支部が共催、気仙沼市、気仙沼市森林組合の協力のの下、平成二十一年度にスギ山を伐採したままとなっている森林所有者を対象に造林補助制度説明会を開催しました。

十二人へ参加を呼びかけましたが、四人の参加となりました。最初に林業普及指導員から「管内の森林と再造林の考え方について」次に「造林補助事業について」を説明し、気仙沼市役

所から「気仙沼市森林整備事業について」続いて森林組合から「森林組合の受託事業と補助金について」説明しました。

意見交換では、「思うように木材が高く売れないから、伐採後そのままにする。植えたいと思うが、費用と効果を考えると植えない」「森林造成の意欲を失った。造林費用の負担に耐えられない」「造林制度の説明を聞くといろいろ分かってくる。今まで造林制度が分からなかった」「(森林所有者は)山がすぎと思うが、どうしたらいいのか分からないのでは。再造林を普及啓発すべき」といった意見がありました。

アンケートでは、説明が「よく分かった」が二人、「分かった」が二人、今後は「再造林したい」「再造林する予定」「考慮中」が各一人、持ち山の間伐を「したい」「考慮中」が各一人でした。



造林制度説明会

気仙沼市、気仙沼市森林組合と連携して再造林の普及啓発に取り組みたいです。

(気仙沼地方振興事務所)

平成二十年岩手・宮城 内陸地震の復旧状況

県内に大きな被害を与えた岩手・宮城内陸地震から二年半が経過しました。昨年九月には被災した国道及び県道の通行止めも全面解除となり、ようやく被災地は、震災前の落ち着きを取り戻しつつあります。

治山事業においても、被災直後から復旧工事に全力で取り組み、多くの崩壊地の復旧が完了しています。

この地震は、震源地が山間部ということもあり、大規模な林地崩壊が多数発生しました。中でも被害が甚大であった栗原市の耕英地区、日影森・洞万地区、温湯地区、浅布・本沢軽井沢地区の四地区については、国（林野庁東北森林管理局）が施工する民有林直轄治山事業により工事が進められており、現在も復旧工事は続いております。

今回は、その中から最も被害が大きかった耕英地区の復旧状況について紹介します。

（森林整備課）

○栗駒耕英地区における民有林直轄治山事業の概要

地区面積：1,171ha 荒廃面積：65.6ha 荒廃率：5.6%

被災概況：冷沢及び御沢支溪沿いの溪岸斜面が大規模に崩壊し、多くの人家へと迫る急崖を形成した。また、崩壊により市道は壊滅的な被害を受けた。

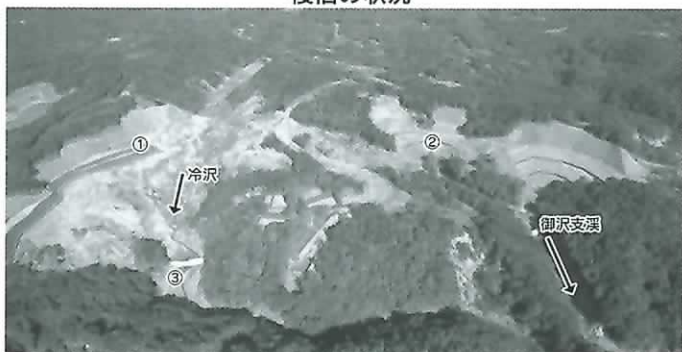
復旧方針：崩壊地では土留工により移動性の高い残留土砂を固定し、主に法枠工・緑化工等の山腹工により、保全対象に近接した箇所での崩壊拡大及び侵食を防止した上、森林への復旧を図る。また、溪流荒廃地では治山ダムや護岸工等の溪間工により残留する不安定土砂を固定し、溪岸侵食を抑制することで、被害の拡大・拡散を防止する。

被災の状況



平成20年6月16日撮影

復旧の状況



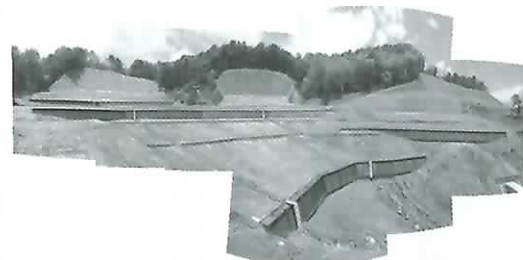
平成22年6月3日撮影

① 法枠工、グラウンドアンカー工など



平成22年6月7日撮影

② 法枠工、鋼製枠土留工など



平成22年5月31日撮影

③ コンクリート谷止工
(木製存置式型枠を使用)



平成22年6月25日撮影

写真提供：東北森林管理局

森林土木技術職員研修の実施

近年、厳しい財政事情の中、事業量の縮小による現場経験の不足や定員の削減による技術指導のできる職員の不在等により、森林土木技術職員一人一人の技術力の低下が危惧されています。一方、森林内での工事の不慣れな請負業者への指導監督や県民への公共投資としての分かりやすい技術的説明等、担当者に求められる能力は、多様化しております。

このようなことから、治山・林道担当者の技術力アップのため、今年度も、森林土木技術職員研修の基本計画に基づき、様々な研修に取り組んできました。

経験三年以上の職員を対象とした中堅研修では、国土交通省が所管する体験型土木構造物実習施設を活用し、工事監督員としての対応技術力の向上のため、施工手順、品質の良否判断などの基礎技術を習得させる研修を実施しました。また、測量研修では、コンパス内蔵レーザー距離計を活用した測量の実践や測量会社の技術者を講師

に、トータルステーションによる林道の路線測量の実践を行い、測量設計外部委託における成果品検収の良否判断技術の向上を図りました。その他にも、新任者及び経験二年以下の職員を対象とした基礎研修、担当班長を対象とした総合研修、安全管理監督職員の指導力向上を目的とした安全管理監督研修、災害の対応を学ぶ山地災害研修など一年間を通し、基礎から専門的な知識の習得まで、実践的な研修の実施に努めてきました。今後とも森林土木技術職員の様々な研修を通して、技術者の育成に努めてまいります。



7月に行われた中堅研修の様子

(林業振興課林業基盤整備班)
(森林整備課治山班)

牡鹿半島におけるニホンジカ被害の状況と対応について



牡鹿半島におけるニホンジカの歴史は古く、仙台藩には牡鹿半島での詳しい鹿猟記録が残されているようです。

ニホンジカが県獣に指定された昭和四十年頃には、狩猟者でさえその姿を見かけることはほとんどなかったと言われていましたが、近年はその生息域を急速に拡大し、平成二十一年度には千三百頭を超えるニホンジカが半島内で捕獲されています。

増えすぎたニホンジカが林業や植物の多様性に及ぼす影響は深刻で、半島を縦断するコバルトライン沿いには、食害され、裸地化が進む皆伐跡地やワラビ・ベニバナボロギクなどシカが好まない植物が目立ちます。

「牡鹿半島ニホンジカ対策協議会」では、平成二十一年度の林業被害を五百四十万円と試算していますが、被害調査方法は確立されておらず、潜在的な被害はより大きなものであると考えられます。

県は平成二十年から「牡鹿半島ニホンジカ保護管理計画」を

策定し、適切な生息密度を十頭／平方キロ以下、生息頭数を千頭以下と定め、狩猟期間の延長やメスジカの捕獲頭数の制限解除など、個体数調整に向けた取り組みを行っています。

また、事務所では、「野生鳥獣被害防除事業」により、従来の防鹿柵に代わる低コストな平面型食害防止工を試験設置し、造林被害対策の実証を行うとともに、保安林機能の早期回復を目的として、食害により裸地化した森林の復旧を図るため、治山事業による森林整備に努めています。

県では、来年度も個体数調整と被害防除を軸としたニホンジカ保護管理、被害対策を実施してまいります。



増えすぎた牡鹿半島のニホンジカ

(東部地方振興事務所)

原木しいたけ起業への道

川崎町森林組合では、平成二十一年度より川崎町との連携で新たな特産品として、原木しいたけの生産に着手しました。生産の主体は乾しいたけで、毎年二万五千本の植菌を目指し、関係機関の支援等を得ながら、栽培技術の習得・施設の整備、更には販路の開拓・ブランド化に取り組んでいます。

昨年は、植菌したほど木が猛暑の影響を受けて発生量が心配されましたが、こまめな散水や庇陰作業等により待望の生しいたけが十一月から発生し、約五百キが販売されました。みちのく杜の湖畔公園近くにあるJA川崎の直売所で直接お買い求めいただけます。

川崎町森林組合では、地域の森林資源を活用した原木しいたけ栽培に取り組み、町の特産品として定着化を図り、原木の伐採による里山の再生と新たな雇用の創出に努めております。



形、味、歯ごたえとも文句なし



職員総出での植菌作業

(大河原地方振興事務所)

きのこの料理の商品化へ!!

調理講習会と試食会を開催 「米川活性化サポート会議」活動

登米地域事務所では、登米市・米川生産森林組合と連携し、恵まれた森林資源や特用林産物を活用し、東和町米川地区の活性化を図ることを目的とした「米川活性化サポート会議」を立上げ、新規取組の支援を行います。

今回は、きのこ料理の商品化を目指し、一月二十四日(月)に東和町米川公民館にてきのこ料理の調理講習会と試食会を開催しました。

この日は町内の「道の駅」や「福祉施設」、「地域住民」など約二十人が参加。フードコーディネーターの八巻美恵子さんが考案した「たっぷりきのこの肉饅頭」「きのこの地場産やさいのさつまあげ」「舞茸カレーパン」「きのこでドレッシング」を調理・試食しました。

しいたけと舞茸の他に、米粉や地元産の肉など地元食材をふんだんに使った料理に、参加者の反応は「舞茸の香りが広がる」「きのこの食感や風味がいい」など上々でした。

今後は、二月二十七日の米川生産森林組合の通常総会開催時、地域住民を対象にした新商品の発表会を開催する予定です。が、今回の試食会で得られた反応を勘案し、コスト分析や地元食材調達の方法等を検討し、平成二十三年度から市内の道の駅や市内各種イベントでの販売を行うこととしています。

これまで、東和町米川地区で特産品でもあった舞茸は、秋の収穫時を除くと乾燥・粉末にした原材料としての販売のみでしたが、商品化・メニュー化することで東和町の名物として定着し、地域活性化が図られ、原木しいたけを含めたきのこ消費の拡大に繋がることも期待されています。



講師(八巻美恵子氏)による調理指導

(東部地方振興事務所 登米地域事務所)

山の幸が直売所を盛り上げる!

加美町の名峰「葉菜山」のほど近くに、「加美町・土産センター・山の幸センター」があります。地元の野菜や山菜・きのこや各種加工品など扱っており、訪れる観光客に好評を博しています。

平成二十一年度の年間売上は二億五千万円を突破し、県内屈指の直売所としてその地位を確立しています。

この施設の成り立ちを振り返って見ますと、平成六年、野菜などを販売する「土産センター」が完成し、平成七年当時の売上は約一億円、その後右肩上がりに売上げが伸びたものの、県内各地に道の駅や直売所ができ始め、客が分散し、平成十年以降、売上げが足踏み状態になってしまいました。

そこで、農産物だけで無く山の幸であるきのこや山菜を扱うべく、平成十五年に林業の補助事業を活用して「山の幸センター」を併設させたところ、売上げが再び右肩上がりになったそうです。

春は、ワラビ、タラノメ、ウ

ド、コシアブラなどの山菜が、秋は、ハタケシメジ、ムラサキシメジといった栽培きのこや、天然きのこが人気商品です。また、マイタケやワサビは一年を通して販売され、安定した売上げを確保しているそうです。



春



秋

春は山菜、秋はきのこで店頭が賑わいます

(北部地方振興事務所)

宮城県産きのこを堪能 「みやぎのキノコ試食会」を開催

平成二十三年一月二十二日に南三陸町ひころの里において「みやぎのキノコ試食会」を開催しました。

当日は、当事務所・宮城北部流域森林・林業活性化センター気仙沼支部主催の「間伐体験講習会」が開催されており、間伐体験参加者十一名、森林組合関係者七名、ムラサキシメジ栽培者一名、計十九名が試食会に参加しました。

料理には、ひころの里内の実証圃内で収穫したムラサキシメジ、昨年、一昨年植菌体験を行ったヒラタケ、キクラゲ、大和町の麓上舞茸生産組合が生産したハタケシメジ(LD2号)、そして気仙沼市内某所で収穫されたマツタケを使用しました。

献立は、既存のキノコ料理レシピをムラサキシメジやハタケシメジに合うよう林業普及指導員がアレンジし、ひころの里の「ばっかり茶屋」を運営するひころレディースと食育ボランティアの皆さんがレシピ通り完璧に調理してくれました。

料理を目の前に「みやぎのキノコの話」としてムラサキシメジとハタケシメジを紹介し、今回提供したキノコ料理の内容についての説明を行いました。試食は、好評でおかわりをする参加者もいました。



ムラサキシメジとハタケシメジの説明中



- 「みやぎのキノコ試食会」メニュー
- ムラサキシメジのさつま揚げとハタケシメジのビール衣揚げ
 - ムラサキシメジとキクラゲの中華風茶碗蒸し
 - ハタケシメジのピザ風焼き
 - ハタケシメジのめんつゆ漬け
 - キノコ汁 ○まつたけ御飯

(気仙沼地方振興事務所)

木造施設が次々お目見え!

今年度、当事務所管内では森林整備加速化・林業再生事業を活用し、四つの施設が県産材により新築または改築される計画になっており、このうち二つが昨年十二月に完成しました。

一つは、仙南地域広域行政事務組合が建設していた大河原消防署村田出張所の庁舎で、建築面積約二八二平米の木造平屋造りで、蔵の街にふさわしい落ち着いた感じの建物となっています。事務組合では、これまで施設の性質上から木造の消防庁舎の建設は行っておらず、今回が初めての木造庁舎の建設ということですが、利用している隊員



落ち着いた雰囲気个村田出張所

からは従来のRC造と違って温かさが感じられ快適との声が聞かれることから、今後同様な施設への波及効果が期待できま

す。もう一つは、福島県国見町桑折町有北山組合が白石市小原の萬歳楽山の登山口に、優良みやぎ材の認証を受けたスギ材を使い建設したトイレと東屋です。萬歳楽山は福島・宮城県境に位置し、標高九一五メートルで見晴台からは蔵王連峰や安達太良山、晴れた日には遠く太平洋まで望むことができ、特にサラサドウダ



県産スギ材を使ったトイレ

(大河原地方振興事務所)

「たたみぜ」という提案

木の良き普及PR活動支援事業によるコナラ材の活用

今回紹介するのは、登米町森林組合とオーダー家具製作を手がける(株)ウッドィアベ工芸が、里山資源の有効活用を発信するため、里山の樹の代表選手であるコナラの加工から家具製作までを検討した成果の一例として「たたみぜ」(tatamiser)を照会します。

コナラは、比重が高く、乾燥が困難なことから家具材としての活用は殆どありませんでした。そこで登米地域事務所では、製材時の木取りや乾燥の前処理としての水中浸漬、気圧を変化させながら乾燥する手法など、比較的短期間で可能となるよう登米町森林組合に技術指導を行いました。乾燥したコナラ材は銀褐色で堅牢な存在感があるため、装飾を排除し、かつ表情を和らげるため畳を活用するなどのデザイン面での工夫を加え、木組みによる木製ソファをウッドィアベ工芸の千葉氏が手がけました。

出来上がった木製ソファに

は、海外から来るお客様をもてなすための空間での活用を念頭に、フランス語で「日本的なも」の総称として使われる「tatamiser」という形容詞を大和ことばである平仮名で「たたみぜ」と名付けました。



たたみぜ(左がコナラ、右がアカマツ)

現在、品質を維持しながらどの程度の販売価格を設定していくのかを協議するとともに、端材を活用した商品の試作も手がけ、コナラ材の活用の幅を広げる取り組みを継続しています。

(東部地方振興事務所 登米地域事務所)

地域材利用の取組について

昨年十月一日に「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」が施行され、国が率先して木材利用に取り組み、ことや、地方公共団体も国の方針に即して主体的な取組に努めること等が定められました。木材需要が拡大し、林業・木材産業の活性化や森林整備の促進に大きな波及効果をもたらすものと期待されています。

しかしながら、実際に公共施設の建築で地域材を利用してもらおうとすると、様々な課題があり容易に進まない現実に突き当たります。どの自治体も財政状況が厳しい中で、木造化・木質化がコスト高になるのではなにかとの懸念を持っていることや、建設を担当する部局の職員は一般的に林業とは無縁であることが多いことから、「どのよ様な種類の木材が地域内で調達可能なのか」、「見積はどこに依頼すればよいか」など不明なことも多く、設計業務の煩わしさを招いていることも要因の一つとして挙げられます。

このため当事務所では、管内

の市町の建築担当課職員等とともに「石巻地区公共施設地域材利用推進会議」を設置して、地域材を使用する側が抱える疑問や課題を積極的に把握し、必要な情報の提供や課題解決に向けた意見交換を積み重ねていきます。また、移動会議として「相川保育所建設工事現場(石巻市)」や、「みやぎ材利用センター建築資材部」の視察を行っており、木材の流通や品質証明の仕組み等について、担当者の理解が深まってきました。

今後、利用推進会議では、これまでに会議で出された様々な疑問や意見、要望等を整理し、公共施設整備担当者向けの「Q&A」として取りまとめを行うこととしています。



相川保育所建設工事の視察

(東部地方振興事務所)

有用広葉樹の安定した種苗確保のための優良母樹林の発掘

本県の造林面積のおよそ二割は広葉樹ですが、県内で生産される広葉樹苗木は少なく、多くが県外から移入されています。その一因として、種子の採取源不足が考えられるため、県内産の広葉樹種子を安定的に供給するには、母樹林を整備していく必要があります。

そこで、林業技術総合センターでは、平成二十年度から二十二年度まで、有用広葉樹の母樹林整備を推進するため、これまで母樹林が整備されておらず、県外からの移入が多いと推定された六樹種(ブナ、ミズナラ、ケヤマハンノキ、トチノキ、カツラ、イタヤカエデ)について、樹種ごとに母樹林候補地となる優良林分を選抜し、毎木調査を行うことになりました。

その結果、ブナは栗原市の一松山に、ミズナラは気仙沼市の徳仙丈山・栗原市の一松山・白石市の不忘山に、ケヤマハンノキは黒川郡の赤崩山に、トチノキは栗原市の一松山に、カツラは大崎市の軍川畦畔林に、イタヤカエデは加美町の八森山にそ

れぞれ優良林分を選抜し、各樹種の樹高や胸高直径等を調査しました。

今回の調査結果をもとに、有用広葉樹の母樹林整備が推進され、広葉樹苗木の自給率が向上することが望まれます。



イタヤカエデ優良林分



ミズナラ優良林分

(林業技術総合センター 環境資源部)

研究情報コーナー

マツノザイセンチュウ抵抗性クロマツ品種の実生苗の評価

○研究の背景

マツノザイセンチュウ抵抗性品種の開発は、平成四年度から開始し、抵抗性品種としてクロマツ七品種、アカマツ四品種を開発し、抵抗性クロマツ採種園を平成十七年度に造成し、採種園の種子から実生苗を育成してきました。

しかし、本県の抵抗性品種からの実生苗が、マツノザイセンチュウに対しどの程度抵抗性を発揮できるのかが不明でした。

○試験方法

試験に用いた実生苗は、抵抗性採種園の自然交配種子と、抵抗性品種の花粉を人工交配し得られた種子から育てました。

抵抗性の評価方法は、抵抗性品種を開発する際と同様に、実生苗一本当たりマツノザイセンチュウ一万頭を接種し、その後の枯損状況で抵抗性を判定する方法を用いています。なお、比較のため、クロマツ精英樹の実生苗にもマツノザイセンチュウを接種しました。

○試験結果及びまとめ

試験の結果、抵抗性採種園の実生苗は精英樹実生苗に比較して高い生存率を示しました。特に人工交配による実生苗は、二倍以上の生存率となりました。抵抗性採種園の自然交配実生苗でも、高い生存率を示す家系が見られる一方、精英樹を下回る家系も現れました。

この原因については、試験に用いた実生苗の交配時期が、平成十八年であり、この時期の採種木が小さいことから、雄花の着花が少なく花粉量が安定していなかったことが考えられます。平成二十二年度は、評価試験を始めたばかりであり、試験に用いた実生苗の本数も十分とは言えず、継続した試験により抵抗性品種実生苗の正確な評価が可能になると考えています。



マツノザイセンチュウ接種状況

(林業技術総合センター 環境資源部)

UV(紫外線硬化)塗装の外壁材への利用可能性について

○概要

木材を屋外で使う場合、劣化や変色等は避けられず、それらの進行を抑えるため、通常は木材保護塗料が使われています。一方、UV(紫外線硬化)塗装は、専用塗料を塗装し、短時間に強い紫外線をあて硬化させます。乾燥が早く、塗膜表面が硬く、光沢があることなどから、屋内での利用が進んでいます。

そこで、これを外壁材に使用し耐候性を高められるか、UV塗装材と木材保護塗料塗装材に促進耐候性試験を行いました。試験体は県内産のスギを製材・乾燥後、淡色系と濃色系二色ずつの四グループに分け塗装を行いました。重量、寸法、色差(色差計による)及び撥水度(水を1ミリ滴下し、一分経過後に拭き取り、吸収しない率を計で表記)を測定し、促進耐候試験機で光と水を試験体に負与する試験を一四四時間から五七六時間の四段階にかけて行い、その後に再度色差及び撥水度の測定を行い、塗膜の劣化状況を評価しました。

○結果と考察

色差については、淡色系の塗装ではUV塗装の変色の度合いが大きい傾向が見られました。濃色系では双方とも大幅な変化はありませんでした。

撥水度は、木材保護塗料塗装とUV塗装では、五七六時間経過後でも劣化状況に明らかな差は見られず塗膜のふくれや割れ等も見られませんでした。

今年度から同じ塗装材を屋外に放置する屋外曝露試験を二カ年の予定で行っております。これらの結果も踏まえて、UV塗装を利用した新たな需要開発へとつなげていきたいと考えています。



試験後UV塗装材の撥水度測定

(林業技術総合センター 地域支援部)

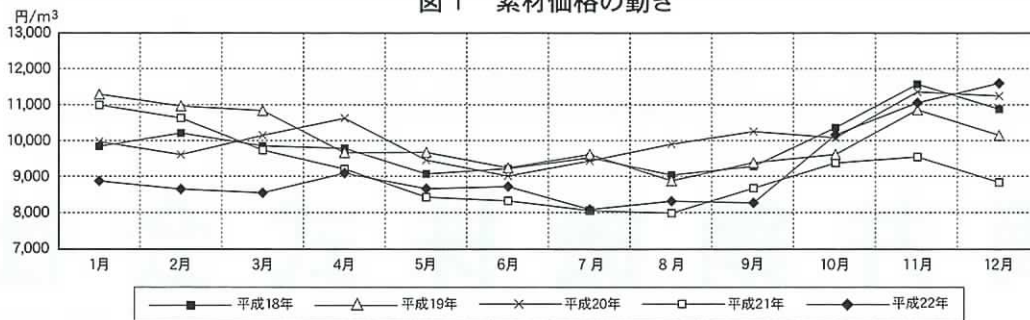
木材市況の動向

表1 各共販所別木材市況 1月

樹種	材長 m	径級 cm	価格(中値 単位:円/m ³)					
			仙南	石巻	仙北	東和	大衡	津山
ス	3.00	14~16	11,520	—	—	—	11,520	11,520
	4.00	10~13直曲	9,720	11,880	11,880	11,880	11,880	11,880
		14~18	11,520	11,880	11,880	11,880	11,880	11,880
ギ	3.65 ~4.00	20~28	11,520	11,880	11,880	11,880	11,880	11,880
		30上	11,520	11,880	11,880	11,880	11,880	11,880
	2.00	14上	6,120	6,120	6,120	7,200	6,120	6,120

資料：県森林組合連合会

図1 素材価格の動き



素材：県森連共販所市況(平均価格)

特産市況の動向

表2 生しいたけ価格の市況

単位:円/kg

年次	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成18年	1,024	948	692	913	833	799	763	776	869	820	865	1,064
平成19年	962	869	884	843	774	664	684	877	887	856	922	1,060
平成20年	977	990	959	903	836	771	760	773	870	846	968	964
平成21年	973	893	886	884	770	716	719	760	741	840	791	844
平成22年	936	840	783	760	710	661	667	786	810	791	843	938

資料：仙台中央卸売市場

図2 生しいたけ価格の動向

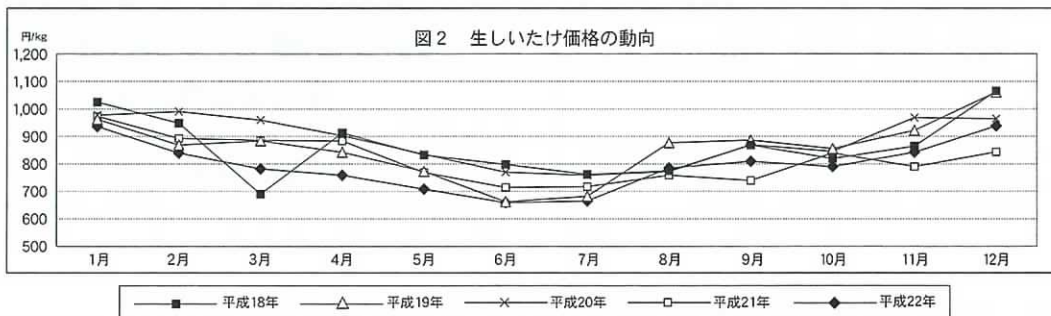


表3 宮城県の新設住宅着工戸数

項目	総数	木造戸数	非木造戸数	木造率(%)
平成22年12月(戸)	1,138	884	254	77.7
平成21年12月(戸)	1,002	633	369	63.2
前年同月比(%)	113.6	139.7	68.8	—
平成22年1~12月(戸)	12,714	8,599	4,115	67.6
平成21年1~12月(戸)	11,495	7,650	3,845	66.6
前年同期比(%)	110.6	112.4	107.0	—

資料：住宅着工統計

概況

新設住宅着工戸数

新設住宅着工数は6ヶ月連続して前年同期比を上回り、平成22年次新設住宅着工戸数は12,714戸と前年比10.6%増となった。持ち家や分譲住宅が好調に推移しており、木造率も高い水準を維持している。

素材動向

素材価格は年後半から小丸太を中心に値を上げてきたが、製品市況が横ばい傾向にあるため、素材も横ばい傾向での動きが予想される。

国産材(生産販売)、木材チップ生産
製材業、伐出造林請負



宮城十條林産株式会社

代表取締役 亀山 征弘

本 社 〒980-0871
仙台市青葉区八幡3丁目2番7号
☎仙台(022)261-2151(代) FAX(022)261-2150
営業所 気仙沼・栗駒・飯野川・大和・白石・郡山・岩出山
工場 気仙沼・栗駒・白石・岩出山
関連会社 宮十運輸株式会社・宮十造園土木株式会社
株式会社宮城環境保全研究所

明治41年創業
～100年かける家づくり～



自然との共生循環をテーマに、
私たちは森を愛し大切に育てています。

〒989-1601
宮城県柴田郡柴田町船岡中央 1-9-12
TEL(0224)58-1100 FAX(0224)58-2252
www.web-sakamoto.co.jp

次代へ進むメーカーと共に技術で、商品で、ニーズに応えます。
製材機械・木工機械・林業機械・プレカット・集成材プラント・乾燥機は

信頼の 高い 筒井鋼機株式会社へ

筒井鋼機株式会社

本 社 仙台市青葉区花京院二丁目2-22 TEL022-224-1261・FAX022-265-9231
盛岡営業所 盛岡市青山四丁目47-32 TEL019-641-7713・FAX019-641-7807
郡山営業所 郡山市田村町金屋字新家34-1 TEL024-944-5912・FAX024-943-5987

E-mail info@tutuikoki.co.jp

U R L <http://www.tutuikoki.co.jp>

目的は自然にやさしいリサイクル緑化です。

道路法面・山腹崩壊地等の緑化工事にPMC緑化工法

日本リサイクル緑化協会 東北支部

〒981-0132

宮城県宮城郡利府町花園一丁目1番地の2

TEL・FAX (022)767-8180

山を活かして、海を豊かに

ウッドアンドシェル緑化工法

現場発生、伐採・伐根材のチップ+カキ殻を
緑化基盤材として有効利用する緑化工法です。

W&S 緑化工法研究会

陽光建設株式会社

仙台市太白区西多賀3-8-10 電話 022-307-1066

佐藤工業株式会社

牡鹿郡女川町鷺神浜字鷺神193-1 電話 0225-53-2365

見て触れて 住んでしみじみ 木の住まい

宮城県木材協同組合

理事長 高橋 義宣

宮城県木材需要拡大協議会

会長 高橋 義宣

みやぎ材利用センター

会長 渋谷 正志

〒981-0908 仙台市青葉区東照宮1-8-8

TEL: 022-233-2883 FAX: 022-275-4936

財団法人 佐々君治山報恩会

理 事 長 尾 花 健喜智

事 務 局 長 佐々木 治 樹

〒989-6165 大崎市古川十日町4番14号

TEL (0229) 22-1281

FAX (0229) 22-1281

E-mail: sasakimi@proof.ocn.ne.jp

宮城県木材チップ協同組合

代表理事 亀山 征弘
 専務理事 山田 勝利
 理事 亀山 武弘
 理事 佐々木 市夫
 監事 小山 松夫
 監事 阿部 貢

〒980-0871 仙台市青葉区八幡三丁目2番7号
 電話 022(261)2151 FAX 022(261)2150

宮城県木材チップ工業会

会長 笹森 篤
 副会長 亀山 征弘
 副会長 中鉢 米孝
 副会長 奥津 文男
 副会長 永井 政雄
 ほかに理事一同

〒980-0871 仙台市青葉区八幡三丁目2番7号
 電話 022(261)2151

も り
未来に向けた森林づくりへ邁進
元気な森林資源を次世代へ

— 森林整備法人 —

社団法人 宮城県林業公社

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号
 TEL (022)275-9171 FAX (022)275-9172
 E-mail : miya-rin@violin.ocn.ne.jp

<http://www16.ocn.ne.jp/~miya-rin/>

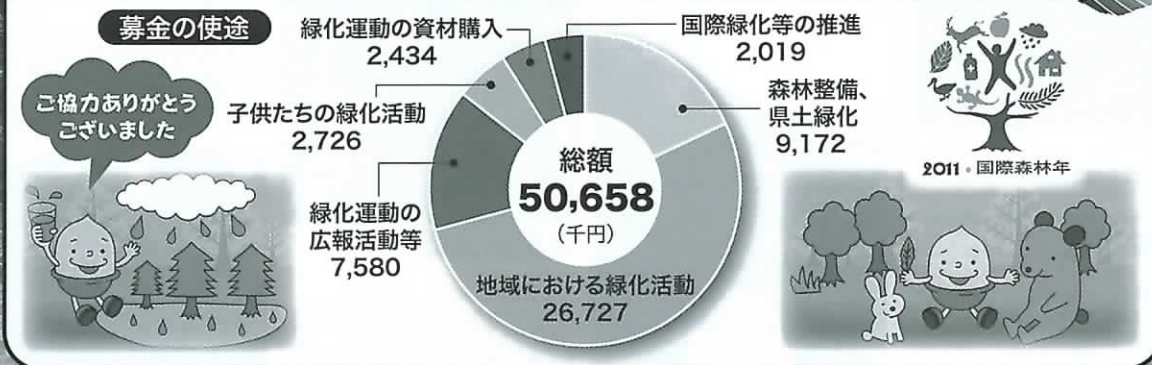


緑の募金

にご協力ください

植樹からめばえる命 育む未来 (平成23年 国土緑化運動標語)

平成22年の緑の募金の結果についてお知らせいたします。



春期募金期間 4月1日～5月31日

秋期募金期間 9月1日～10月31日

社団法人宮城県緑化推進委員会

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17 宮城県仙台合同庁舎内
 TEL.022-301-7501 FAX.022-301-7502

農林中金は、「森林再生基金」の取組み(創立80周年記念事業)等を通じ、大切な森林資源の維持・確保に向けた取組みを積極的に支援しています。

農林中央金庫 仙台支店

〒980-0011 仙台市青葉区上杉一丁目2番16号(JAビル宮城内) ☎022(711)7531(代)

私たちは森林づくりのプロフェッショナルです。ご相談はお近くの森林組合に！

Forest 宮城県森林組合連合会

森林組合系統の新しいロゴマークです

仙台市青葉区上杉2丁目4-46
TEL022-225-5991 FAX022-225-5994

■優良みやぎ材の原木は

仙南木材センター 0224-65-2166	東和木材センター 0220-45-2240
大衡総合センター 022-345-2205	津山木材センター 0225-68-3038
岩出山木材センター 0229-72-1877	石巻木材センター 0225-95-6065

■樹木の枝や根の有効利用は ウッドリサイクルセンター 022-345-6041

発行 編集協力 宮城県林業振興協会 仙台市青葉区堤通雨宮町四番十七号 宮城県農林水産部林業振興課

林業の今を伝える月刊誌

平成23年度の購読申込受付中!!

森林技術



A5判 80頁
年間購読料 5,200円(送料込み)

月刊「現代林業」は、「現場主義」をモットーに、林業のトレンドをリードする雑誌として長きにわたり「オビニオン+情報提供」を展開してきました。本誌では、地域レベルでの林業展望、再生可能な木材の活用、山村振興をテーマとして、現場取材を通じて新たな林業の視座を追求しています。

森林技術

B5判 48頁
年間購読料定価 3,500円(送料込み)

森林・林業関連情報の迅速な会員への伝達、今日的技術課題の解説、新技術の紹介等を中心に、会員の技術向上に資することを目的に編集・発行しています。大正11年創刊。

GR 現代林業



A5判 80頁
年間購読料 5,200円(送料込み)

月刊「現代林業」は、「現場主義」をモットーに、林業のトレンドをリードする雑誌として長きにわたり「オビニオン+情報提供」を展開してきました。本誌では、地域レベルでの林業展望、再生可能な木材の活用、山村振興をテーマとして、現場取材を通じて新たな林業の視座を追求しています。

地域材戦略をコアテーマ

林業知識



B5判 24頁
年間購読料 2,800円(送料込み)

1953年の創刊以来、全国の林業関係者、森林所有者に愛読され、業界随一の発行部数を誇っています。そのコンセプトは、「農山村に暮らし働く人にスポットを当て、さまざまな話題や情報を、写真・イラストをふんだんに使いながらわかりやすく紹介することです。関係者はもとより、森林・林業に興味のある方々にも納得していただける月刊誌です。」

山林



A5判 66頁
年間購読料定価 3,500円(送料込み)

会誌『山林』は、明治15年1月の本会創立とともに刊行され、以後一回の欠号もなく発行をつづけ、既に1400号を超えています。したがって、本誌は、明治以降のわが国林業の生き証人としても高い評価を得ています。

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17 宮城県仙台合同庁舎10階 宮城県林業振興協会

TEL 022-301-7501 FAX 022-301-7502

図書の申込、問い合わせは

022-301-7501